

小麦品種「ゆきちから」は、
茎立期追肥により精子実重が増加する

【概要】

小麦品種「ゆきちから」は、茎立期追肥により従来の起生期（融雪期）追肥と比較して、精子実重が 10% 程度増加します。また、原麦タンパク質含有率、容積重、検査等級は起生期（融雪期）追肥と同等です。

- 1 茎立期追肥により精子実重は 10% 程度増加します。これは、 m^2 粒数（ m^2 穂数×一穂粒数）と収穫指数の向上によるもので、根雪期間（長期積雪）の長短にかかわらず、増収効果が認められます。また、原麦タンパク質含有率、容積重、検査等級は追肥時期による差は認められません（表 1、表 2）。

【試験データ等】

表 1 試験期間における小麦の生育ステージと根雪期間

試験地	試験年次	生育ステージ							根雪期間		日平均気温		備考
		播種日	消雪日	起生期	幼穂 形成期	茎立期	穂揃期	成熟期	アメダス実況値		小麦一作期		
									北上	一関	北上	一関	
北上市成田	R2/R3	10/7	3/4	3/19	4/2	4/12	5/13	6/28	80	-	+0.2	-	通常年
	R3/R4	10/14	3/12	3/22	4/9	4/19	5/12	6/29	77	-	+0.1	-	通常年
	R4/R5	10/3	2/24	3/12	3/24	4/5	5/12	6/27	32	-	+1.3	-	暖冬年
一関市	R4/R5	10/27	2/23	3/6	3/25	4/9	5/8	6/27	-	0	-	+0.6	暖冬年
川辺藤後向	R5/R6	10/19	-	2/20	3/22	4/11	5/7	6/19	-	0	-	+1.2	暖冬年

表 2 精子実重、収量構成要素及び原麦品質

試験地	試験年次	追肥時期	精子実重		収量構成要素				収穫指数	原麦品質		
			2.2mm篩上		n粒数	n穂数	一穂粒数	千粒重		タンパク	容積重	検査等級
			(kg/10a)	(%)								
北上市 成田	R2-R5 3年平均	起生期	457	(100)	12.1	448	28.1	37.8	38.4	12.7	823	1.3
		幼穂形成期	478	105	12.7	431	31.3	38.0	39.1	12.1	826	1.5
		茎立期	502	110	13.3	435	32.9	38.1	42.0	12.5	824	1.3
一関市 川辺藤後向	R4-R6 2年平均	起生期	568	(100)	15.3	584	25.8	38.6	40.1	11.4	799	2.0
		幼穂形成期	603	107	16.4	567	28.2	38.7	42.3	11.8	799	1.8
		茎立期	602	107	15.7	523	29.8	40.0	43.3	12.0	798	1.5

※ 収穫指数：収穫部位（粗子実重）/全乾物重の値。光合成産物が子実にとどの程度転流したかを示す数値で、この数値が高ければ子実の生産効率が高いことを示す。

図 1 茎立期の判断指標

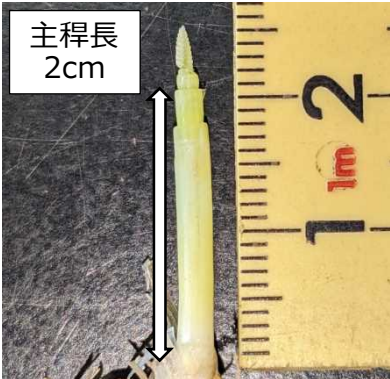


図 2 茎立期の草姿



【令和 6 年度成果】小麦品種「ゆきちから」は茎立期追肥により精子実重が増加する（R6-指-06）